

## [094] 史淵表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/2244518>

---

出版情報：史淵. 94, 1965-03-15. Faculty of Literature, Kyushu University  
バージョン：  
権利関係：

# 彙 輯

昭和三十九年十月  
昭和四〇年三月

## 史料科講義題目

### 国史学

九州近世史の諸問題

近世史

近世史料

中世の日記

太良莊の研究

中世史料

近世史研究

講 義

鎖国の形成と國際環境

莊園をめぐる「1116」の問題

奈良朝政治史

東洋史

演習

世説新語

奉天錄

明史食貨史  
講 義  
唐代制度史  
唐代課丁考  
古代家族制度

講 義

江嶋 助教授

日野 教授  
越智 助教授

## 西洋史

近代思想史 (G. D. H. Cole, Socialist Thought  
1789—1850)

Paul Thompson : Liberals, Radicals and  
Labour in London 1880—1900

J. Kuczynski : Zur Soziologie des  
imperialistischen Deutschland.

社会主義  
Tawtier (R) Les Capétiens et la France

ハーバード主張調査誌 ("Les ét-  
ablissements de Saint Louis")

中世から聖母へと傳達する諸問題

(J. Haller und H. Dannenbauer, Von den

Staufern zu den Habsburgern)

ハーバード調査 (Das Hauptstadt problem  
in der Geschichte)

江嶋 助教授

小林 教授

講 義

ドイツ社会構成史 (十六世紀)

江嶋 助教授

小林 教授

フランス中世史

講 読

西洋古代中世史研究上の基礎概念

考 古 学

演 習

日本考古学 (A)

" (B)

(C)

東洋考古学の諸問題

実 習

講 義

遺跡論(古代の城柵)

中国考古学

臨時講義

日本史学史

石器時代

ギリシャ史

立教大学教授

東北大学教授

東京大学教授

大久保利謙

伊 東 信 雄

村川堅太郎

岡 崎 鏡 山 教授  
岡 崎 助教授

鏡 山 教授

森 助教授

森 助教授

## 国史学科の動向

大学院修士課程

木原溥幸「幕藩体制解体期の藩政史研究」

○三十九年度進学生は次の十三名である。十月以降、研究室は学部学生四八名、大学院七名を擁することとなつた。

朝火英夫、井上勝利、木原国男、木村隆久、倉光絃一、

後藤敏彦、小林一惠、酒井恭子、田坂大蔵、豊田晃、  
平田真司、道永洋子、宮原敏昭

○三十九年度の九州史学研究会総会は十一月廿九日、文学部に於て開催され次の発表があつた。テーマ及び発表者は次の通りである。

「鎌倉初期における九州政治情勢——石井論文を中心にして——」

水崎雄文(卒業生)

「鎌倉期九州における御家人及び在地領主研究」

——南部九州—— 恵 良 宏

——北部九州—— 山 口 隼 正

○卒業生及び研究室関係者の出版、史料校訂では次のものがあつた。

山口宗之「全集橋本左内関係史料研究」

三木俊秋、桑波田興「富士谷文書(1)」(九州史料叢書9)

中村質「長崎平戸町人別帳」(九州史料叢書10)

東良宏「筑後国水田庄・広川庄史料」(九州庄園史料叢書10)  
のうち水田庄史料の校訂。

○本年度卒業生は大学院修課二名、学部学生十二名である。氏名及び論文は左の通りである。

彙報

## 西洋史学科の動向

学部卒業生

荒巻秀海「近世後半期における遠賀川水運」

安藤 保「鹿児島藩の土地制度・浮免についての一考察——」

石井昭紀「筑前に於ける自由民権運動—筑前共愛会の構造—」

上野純也「幕藩体制の成立過程—立花氏の柳河立藩以前を中心として—」

後藤良和「府内藩の青蓮について」

塩満郁夫「大隅国正八幡宮について」

高宮 修「明治前期の地方制度について—特に長崎県を中心として—」

塚原幸雄「幕末における佐賀藩の長崎警備」

永利育代「古代に於ける女帝出現の意義」

日永田義紀「大内氏の北九州支配について」

湯舟武男「明治初期に於ける藩政改革—佐賀藩について—」

○以上十四名の卒業および修了を祝して予饗会が二月八日、三畏閣において催されたが、学外からも卒業生多数迎えて盛会であつた。

○十月西洋史学科は教養部からの進学生十五名を迎へ、学部学生

四七名、大学院六名を擁することになった。

◎後期より卒論指導の時間を設けることになり、清水、曾根崎、

早川、清原、吉田、須藤、桃の七名が構想発表を行ひ、「一月一

日には小林教授が Jonathan Steinberg, "Kaiser's Navy and

German Society" Past and Present, July 1964 を取上げて論

文紹介の模範を示された。

◎大学院学生による研究発表は次の如く。

奥田明子「武勲詔の cycles について」

古川栄輔「ドイツ工業全国連盟の活動とその役割について」

古川栄輔「ウイルヘルム・グレーナー」

志垣嘉夫「アンサン・レシームにおけるハイエフとサンショウの法的分析」

木原悠子「政黨再編成期における北部労働者階級の動向」

篠塚敏生「革命的オプロイチ」

◎本年度の学部卒業生および卒業論文は以下の如くであった。

曾根崎謙臣「一八九〇年代の民主党におけるウイリアム・J・

ブライアン登場の歴史的意義」

宗守賢尚「再建期における関税問題—共和党急進派の関税政策」

須藤修弘「アンテ・ペラム南部における民主主義運動の展開とその性格」

清水勇雄「W・E・グラツィストーンの自由主義的植民地政策」

早川鉢一「ジャックソニア・デモクラシーにおける反独占論

の基本的性格」

吉田克己「J・P・アルトゲルドのイリノイ州政改革と全国政治」

上田蕃穂「エマーソンのトランセンタリズムとその歴史的背景」

岸ちづ子「シトー派修道院付属教会堂の成立をめぐって」

清水正俊「一九一〇年代のロシア共産党内の労働組合をめぐる論争について」

宮本浩「ナルマン労働争議」

◎修士論文は次の通りである。

奥田明子「ローランの歌研究序説」

古川栄輔「ウイルヘルム・グレーナーの思想と政策」

尚兩名とも博士課程に進学される。

◎生熊来吉氏は今年三月で所定の単位取得修了により大学院博士

課程を退学されることになった。

◎以上十四名の卒業および修了、退学を祝つて三月一日午後六時より三井貴閣において送別会を催した。

## 東洋史学科の動向

◆人事

○三十九年度卒業生

片山正毅「五代藩鎮下の幕職官」

古川勝久「河東道内軍鎮の発達と河東節度使」

青木佑子「北宋の体量和買釋草に就いて」

四島恭子「唐代の倉庫業と店」

清水志賀子「五四運動の中国革命史上に於ける位置とその遺

産」

森 道子「宋代の検校庫に就いて」

○三十九年度大学院修士課程修了者

平川周造「元代の塩法」

◇出 版

○東洋史学第二十七輯（三十九年十二月刊）

唐代大城邑の戸数規模に就いて 一特に首都長安を中心とする

唐代邊防機関としての守捉・城・鎮等の成立過程について

宋代幕職官の成立について

地税なる語の用法より見た大曆の夏税・秋税と兩税との関係

○八月九～十一日 熊本県山鹿市長岩横穴群調査 小田・宮小路賀宏参加

○八月一七～三日 福岡県京都郡勝山町箕田丸山古墳・行橋市

下黒田庄屋塚古墳調査（三十九年度総合調査）

岡崎敬・小田・石松好雄・黒野肇その他

○八月二七～三日 浮羽郡浮羽町重定及び楠名古墳測量

小田・石松・樋久嗣郎

○八月一七～九月一四日 佐賀市常限山神籠石調査

研究室全員

○八月五～七日 浮羽郡吉井町日ノ岡古墳・久留米市京町日輪寺

古墳測量 小田・石松・宮小路・前川威洋

○十一月一〇～二二日 熊本県荒尾市東光寺中世石塔群調査

小田・石松・宮小路・前川威洋

○十一月一～十日 大分県速見郡山香町向野水月寺址調査

研究室全員

度支巡院と均鐵巡院

五代における軍巡院の成立

北宋時代の京師東南間便銭と東南末塩鈔との関係について

幸 徹

○十一月十一～十四日 長崎県大村市周辺遺跡の調査

鏡山猛・宮小路・黒野その他

研究室全員

## 考 古 学 科

## 発表題目

○十一月二〇～二三日 宮崎・熊本方面古墳分布調査 小田

○十一月二七～二八日 小倉高校所蔵考古資料調査

○一月十三～十四日 嘉穂郡桂川町王塚古墳羨道部調査 小田・黒野・安倍芳一

○三月十九～二十一日 大分県速見郡山香町水月寺遺物整理 渡辺正氣・小田・石松

○三月二十五～三〇日 福岡市警弥原弥生遺跡調査 小田

○三月二三～四月五日 飯塚市立岩弥生墳墓調査 研究室全員

△本年度学部進学生に橋口達也君一名を迎へ、十一月六日歓迎会を行つた。

△本年度卒業生は久保山教善君（大学院修士）一名である。なお同君はひきつづき博士課程に進学した。

卒業論文

久保山教善「琉球八重山群島の歴史的位置について」（修士）

—与邦国島の考古学的調査を中心として—

◆昭和三十九年度西日本史学会秋季学術大会は十月十七・十八日

山口大学文理学部及び山口県文書館に於て開催し、とくに、四

国歴史・地理協会及び山口史学会・山口県地方史学会等との合

同主催によつて盛会でした。

## ▽公開講演△

平氏と西國

社会史の本領

福岡学芸大学助教授 飯田久雄氏

広島大学教授 高山一十氏

## ▽部会発表△

國史部会

1 淨御原令の調税制

2 「欽明十三年仏教渡来説と末法思想」補遺

3 平安遺文「金石文」の内容について 八女高

4 田原紹忍の軍事力—その基礎構造について—

5 毛利藩における倭物の生産と集荷

6 近世西本願寺教權確立の一過程

7 薩藩門百姓の農業經營

8 長崎貿易における唐人船宿

9 幕末期芸州藩における商品經濟の特質

—臼杵小林郷細野村志戸本家を中心に—

10 朝鮮半島と日本書紀

1 東洋史部会

2 中國古代農業論における自然觀

3 朝廷差補の幕職官と隨府の幕職官

4 沿辺五路に於ける保甲編排について

5 沿辺五路に於ける保甲編排について

6 沿辺五路に於ける保甲編排について

7 沿辺五路に於ける保甲編排について

8 沿辺五路に於ける保甲編排について

9 沿辺五路に於ける保甲編排について

10 沿辺五路に於ける保甲編排について

11 沿辺五路に於ける保甲編排について

12 沿辺五路に於ける保甲編排について

13 沿辺五路に於ける保甲編排について

14 沿辺五路に於ける保甲編排について

15 沿辺五路に於ける保甲編排について

16 沿辺五路に於ける保甲編排について

17 沿辺五路に於ける保甲編排について

18 沿辺五路に於ける保甲編排について

19 沿辺五路に於ける保甲編排について

20 沿辺五路に於ける保甲編排について

21 沿辺五路に於ける保甲編排について

22 沿辺五路に於ける保甲編排について

23 沿辺五路に於ける保甲編排について

24 沿辺五路に於ける保甲編排について

25 沿辺五路に於ける保甲編排について

26 沿辺五路に於ける保甲編排について

27 沿辺五路に於ける保甲編排について

28 沿辺五路に於ける保甲編排について

29 沿辺五路に於ける保甲編排について

30 沿辺五路に於ける保甲編排について

31 沿辺五路に於ける保甲編排について

32 沿辺五路に於ける保甲編排について

33 沿辺五路に於ける保甲編排について

34 沿辺五路に於ける保甲編排について

35 沿辺五路に於ける保甲編排について

36 沿辺五路に於ける保甲編排について

37 沿辺五路に於ける保甲編排について

38 沿辺五路に於ける保甲編排について

39 沿辺五路に於ける保甲編排について

40 沿辺五路に於ける保甲編排について

41 沿辺五路に於ける保甲編排について

42 沿辺五路に於ける保甲編排について

43 沿辺五路に於ける保甲編排について

44 沿辺五路に於ける保甲編排について

45 沿辺五路に於ける保甲編排について

46 沿辺五路に於ける保甲編排について

47 沿辺五路に於ける保甲編排について

48 沿辺五路に於ける保甲編排について

49 沿辺五路に於ける保甲編排について

50 沿辺五路に於ける保甲編排について

51 沿辺五路に於ける保甲編排について

52 沿辺五路に於ける保甲編排について

53 沿辺五路に於ける保甲編排について

54 沿辺五路に於ける保甲編排について

55 沿辺五路に於ける保甲編排について

56 沿辺五路に於ける保甲編排について

57 沿辺五路に於ける保甲編排について

58 沿辺五路に於ける保甲編排について

59 沿辺五路に於ける保甲編排について

60 沿辺五路に於ける保甲編排について

61 沿辺五路に於ける保甲編排について

62 沿辺五路に於ける保甲編排について

63 沿辺五路に於ける保甲編排について

64 沿辺五路に於ける保甲編排について

65 沿辺五路に於ける保甲編排について

66 沿辺五路に於ける保甲編排について

67 沿辺五路に於ける保甲編排について

68 沿辺五路に於ける保甲編排について

69 沿辺五路に於ける保甲編排について

70 沿辺五路に於ける保甲編排について

71 沿辺五路に於ける保甲編排について

72 沿辺五路に於ける保甲編排について

73 沿辺五路に於ける保甲編排について

74 沿辺五路に於ける保甲編排について

75 沿辺五路に於ける保甲編排について

76 沿辺五路に於ける保甲編排について

77 沿辺五路に於ける保甲編排について

78 沿辺五路に於ける保甲編排について

79 沿辺五路に於ける保甲編排について

80 沿辺五路に於ける保甲編排について

81 沿辺五路に於ける保甲編排について

82 沿辺五路に於ける保甲編排について

83 沿辺五路に於ける保甲編排について

84 沿辺五路に於ける保甲編排について

85 沿辺五路に於ける保甲編排について

86 沿辺五路に於ける保甲編排について

87 沿辺五路に於ける保甲編排について

88 沿辺五路に於ける保甲編排について

89 沿辺五路に於ける保甲編排について

90 沿辺五路に於ける保甲編排について

91 沿辺五路に於ける保甲編排について

92 沿辺五路に於ける保甲編排について

93 沿辺五路に於ける保甲編排について

94 沿辺五路に於ける保甲編排について

95 沿辺五路に於ける保甲編排について

96 沿辺五路に於ける保甲編排について

97 沿辺五路に於ける保甲編排について

98 沿辺五路に於ける保甲編排について

99 沿辺五路に於ける保甲編排について

100 沿辺五路に於ける保甲編排について

101 沿辺五路に於ける保甲編排について

102 沿辺五路に於ける保甲編排について

103 沿辺五路に於ける保甲編排について

104 沿辺五路に於ける保甲編排について

105 沿辺五路に於ける保甲編排について

106 沿辺五路に於ける保甲編排について

107 沿辺五路に於ける保甲編排について

108 沿辺五路に於ける保甲編排について

109 沿辺五路に於ける保甲編排について

110 沿辺五路に於ける保甲編排について

111 沿辺五路に於ける保甲編排について

112 沿辺五路に於ける保甲編排について

113 沿辺五路に於ける保甲編排について

114 沿辺五路に於ける保甲編排について

115 沿辺五路に於ける保甲編排について

116 沿辺五路に於ける保甲編排について

117 沿辺五路に於ける保甲編排について

118 沿辺五路に於ける保甲編排について

119 沿辺五路に於ける保甲編排について

120 沿辺五路に於ける保甲編排について

121 沿辺五路に於ける保甲編排について

122 沿辺五路に於ける保甲編排について

123 沿辺五路に於ける保甲編排について

124 沿辺五路に於ける保甲編排について

125 沿辺五路に於ける保甲編排について

126 沿辺五路に於ける保甲編排について

127 沿辺五路に於ける保甲編排について

128 沿辺五路に於ける保甲編排について

129 沿辺五路に於ける保甲編排について

130 沿辺五路に於ける保甲編排について

131 沿辺五路に於ける保甲編排について

132 沿辺五路に於ける保甲編排について

133 沿辺五路に於ける保甲編排について

134 沿辺五路に於ける保甲編排について

135 沿辺五路に於ける保甲編排について

136 沿辺五路に於ける保甲編排について

137 沿辺五路に於ける保甲編排について

138 沿辺五路に於ける保甲編排について

139 沿辺五路に於ける保甲編排について

140 沿辺五路に於ける保甲編排について

141 沿辺五路に於ける保甲編排について

142 沿辺五路に於ける保甲編排について

143 沿辺五路に於ける保甲編排について

144 沿辺五路に於ける保甲編排について

145 沿辺五路に於ける保甲編排について

146 沿辺五路に於ける保甲編排について

147 沿辺五路に於ける保甲編排について

148 沿辺五路に於ける保甲編排について

149 沿辺五路に於ける保甲編排について

150 沿辺五路に於ける保甲編排について

151 沿辺五路に於ける保甲編排について

152 沿辺五路に於ける保甲編排について

153 沿辺五路に於ける保甲編排について

154 沿辺五路に於ける保甲編排について

155 沿辺五路に於ける保甲編排について

156 沿辺五路に於ける保甲編排について

157 沿辺五路に於ける保甲編排について

158 沿辺五路に於ける保甲編排について

159 沿辺五路に於ける保甲編排について

160 沿辺五路に於ける保甲編排について

161 沿辺五路に於ける保甲編排について

162 沿辺五路に於ける保甲編排について

163 沿辺五路に於ける保甲編排について

164 沿辺五路に於ける保甲編排について

165 沿辺五路に於ける保甲編排について

166 沿辺五路に於ける保甲編排について

167 沿辺五路に於ける保甲編排について

168 沿辺五路に於ける保甲編排について

169 沿辺五路に於ける保甲編排について

170 沿辺五路に於ける保甲編排について

171 沿辺五路に於ける保甲編排について

172 沿辺五路に於ける保甲編排について

173 沿辺五路に於ける保甲編排について

174 沿辺五路に於ける保甲編排について

175 沿辺五路に於ける保甲編排について

176 沿辺五路に於ける保甲編排について

177 沿辺五路に於ける保甲編排について

178 沿辺五路に於ける保甲編排について

179 沿辺五路に於ける保甲編排について

180 沿辺五路に於ける保甲編排について

181 沿辺五路に於ける保甲編排について

182 沿辺五路に於ける保甲編排について

183 沿辺五路に於ける保甲編排について

184 沿辺五路に於ける保甲編排について

185 沿辺五路に於ける保甲編排について

186 沿辺五路に於ける保甲編排について

187 沿辺五路に於ける保甲編排について

188 沿辺五路に於ける保甲編排について

189 沿辺五路に於ける保甲編排について

190 沿辺五路に於ける保甲編排について

191 沿辺五路に於ける保甲編排について

192 沿辺五路に於ける保甲編排について

193 沿辺五路に於ける保甲編排について

194 沿辺五路に於ける保甲編排について

195 沿辺五路に於ける保甲編排について

196 沿辺五路に於ける保甲編排について

197 沿辺五路に於ける保甲編排について

198 沿辺五路に於ける保甲編排について

199 沿辺五路に於ける保甲編排について

200 沿辺五路に於ける保甲編排について

201 沿辺五路に於ける保甲編排について

202 沿辺五路に於ける保甲編排について

203 沿辺五路に於ける保甲編排について

204 沿辺五路に於ける保甲編排について

205 沿辺五路に於ける保甲編排について

206 沿辺五路に於ける保甲編排について

207 沿辺五路に於ける保甲編排について

208 沿辺五路に於ける保甲編排について

209 沿辺五路に於ける保甲編排について

南宋財政における「截留」の意義

河村乾二郎

范氏義莊「租冊」の紹介

広島大 伊原弘介

河村乾二郎

韓非子忠孝編

広島大 板野長八

河村乾二郎

ビルマの名に関する問題点

広島商大 杉本直治郎

西洋史部会

近世の方知行制 —長州藩の場合—

山口県文書館 石川卓美

フランスにおける武勲詩の「シーサー」(Cycle)について

九州大 奥田明子

地理学部会

山口県阿武高原における火山噴出による堰塞湖益と

ルネサンスと宗教改革

岡山大 植村雅彦

地理学部会

山口県阿武高原における火山噴出による堰塞湖益と

イギリス革命とジェントリ

広島大 西海太郎

地理学部会

山口県阿武高原における火山噴出による堰塞湖益と

ベルリン会議前後のフランス外交

明治大 武則忠見

地理学部会

山口県阿武高原における火山噴出による堰塞湖益と

アメリカ保守主義の価値体系 広島農業短大

梶谷宏義

地理学部会

山口県阿武高原における火山噴出による堰塞湖益と

プロゲレシヴィズム(革新主義)批判

大正大 古川栄輔

地理学部会

山口県阿武高原における火山噴出による堰塞湖益と

一特に資本家の評価について

西南学院大 福本保信

地理学部会

山口県阿武高原における火山噴出による堰塞湖益と

「ドイツ工業全国連盟」の活動とその役割について

(一九一八—一九三一)

地理学部会

山口県阿武高原における火山噴出による堰塞湖益と

分布について

九州大 古川栄輔

地理学部会

山口県阿武高原における火山噴出による堰塞湖益と

「ドウツ工業全国連盟」の活動とその役割について

西海太郎

地理学部会

山口県阿武高原における火山噴出による堰塞湖益と

地方史部会

岡山大 植村雅彦

地理学部会

山口県阿武高原における火山噴出による堰塞湖益と

大内氏臣団の文化交流 —連歌活動を中心に—

山口県文書館 田村哲夫

地理学部会

山口県阿武高原における火山噴出による堰塞湖益と

大内時代の社寺建築

内田伸

地理学部会

山口県阿武高原における火山噴出による堰塞湖益と

長州藩における嘉永二年の教育改革について

山口県教育研究所 河村太市

地理学部会

山口県阿武高原における火山噴出による堰塞湖益と

防長神道教化史の一構想

阿川八幡宮 伊藤忠芳

地理学部会

山口県阿武高原における火山噴出による堰塞湖益と

瀬戸内海地域における式内社研究の二、三の問題

山口県文書館 田村哲夫

地理学部会

山口県阿武高原における火山噴出による堰塞湖益と

山口県文書館 田村哲夫

内田伸

地理学部会

山口県阿武高原における火山噴出による堰塞湖益と

山口県文書館 田村哲夫

内田伸

地理学部会

山口県阿武高原における火山噴出による堰塞湖益と

山口県文書館 田村哲夫

内田伸

地理学部会

山口県阿武高原における火山噴出による堰塞湖益と

## —熊本県水の山の配石、墓を中心として—

山鹿高限 昭志

6 南筑八女地方に於ける押型文と弥生期との関連 福島高 岩崎 光

7 本州西端部の海岸段丘と無土器文化 山口大 小野忠灘

8 山口県月崎遺跡下層出土の繩文式土器について 広島大 潮見 浩

4 高等校における地理学習の自然環境取扱の深度と  
問題点—地形の場合 徳佐高 福原 博  
5 高等学校の地理学習において野外調査はどのように  
指導したらよいか 市立下関第一高校における実施を例にして—

市立下関一高 田中 勇

6 小学校社会科における地理的学習の系統 広島大 金子 廉

## 歴史教育部会

## 1 中学校歴史教育における問題点について

岐陽中 金子博昭

## 2 歴史事象と時代の流れについての認識を深める指導

厚南中 森本 浩

## 3 歴史学習における興味、関心の深究 厚狭中 野村久麿

## 4 高校歴史（日本史）教育の改善 門司高 近田吉夫

## 歴史教育討論会

## 論題「指導における困難性とその打開策」地理教育部会

## 1 明治以後の小学校教科書による地理教育の発表

## —中国地方の取り扱いを通して—

湯野小 秋本元久

## 2 わが国農業の推移と社会科教育

玖珂教育事務所 松田保馬

## 3 サンプリングメソッドによる工業化学習

山口大付中 酒井忠生